

■一般目標（GIO）

我が国は超高齢社会を迎え、フレイル予防に欠かせない「運動」「食生活」「社会参加」の3つの柱をサポートすることが課題になっている。「老いとはどういうものなのか」ヒトとしての倫理観を考えるとともに、歯科衛生士としてこの3つの柱をどのようにサポートしていくかを自ら考えるために必要な知識・技術・態度を身につける。

■到達目標（SBOs）

- ・高齢者に多い全身疾患・口腔疾患について説明できる。
- ・安全・安楽な姿勢で口腔衛生管理を実施できる。
- ・有病高齢者への口腔衛生管理での留意点を説明できる。
- ・車椅子を操作し介助を実施できる。
- ・視覚障害のある人の誘導方法を実施できる。
- ・高齢者疑似体験と介助を実施できる。
- ・食事形態の種類を説明できる。

■教科書：歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学(医歯薬出版)

■授業時間：木曜日 13：00～14：50（1） 15：00～16：50（2）

■オフィスアワー：中澤 広美 (nakazawa.hiromi@nihon-u.ac.jp)

月曜日～金曜日 9：00～17：00

■授業の方法：・講義：教科書とレジュメ，プロジェクターを利用
・グループワークおよびグループディスカッション
・実習：高齢者を想定して行う。

■準備学習・ 事前に教科書，参考書を読み講義内容を予習しておくこと。

準備学習時間：実習前は授業の復習をし，何のための実習なのかよく考えて臨むこと。

忘れ物がないか十分に確認をすること。

復習では教科書，レジュメを合わせ，理解を深めること。

■成績評価方法：定期試験(80%)，課題(10%)，学ぶ姿勢（10%）を総合評価

■注意事項：・長く世の中を支えてくださっている高齢者を敬う気持ちを忘れないこと。

・「老いる」意味をよく考えて，歯科衛生士に求められることを常に探究すること。

・実習を欠席した場合は補習対象になるが，補習を欠席した場合の補習は原則認めない。

■実務経験 中澤 広美：大学病院，総合病院，高齢者福祉施設、児童福祉施設での勤務経験を基に，社会のニーズを取り入れた学べる場を提供したいと考えている。

■ 予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1・2・3・4回 (1)(2) 5月1日 第5・6・7・8回 (1)(2) 5月8日	高齢者に多い疾患の特徴	・ 高齢者に多い疾患と特徴について調べる。 ・ グループ内で討論できる。 ・ グループで役割分担ができる。 ・ 資料を作成できる。
第9・10回(2) 5月29日 中澤 広美	デンチャープラークコントロール	・ 義歯を装着している人への指導方法について説明できる。 ・ 義歯の管理の注意点を説明できる。 ・ 義歯の清掃が実施できる。 ・ 顎補綴義歯の特徴が説明できる。
第11・12回 (1)(2) 6月5日 中澤 広美	要介護高齢者に対する口腔健康管理	・ 要介護高齢者に対する口腔衛生管理が実践できる。 ・ オーラルケア用品の目的を理解し、適切な道具が選択できる。
第13・14・15・16回 (1)(2) 6月12日 中澤 広美	①周術期口腔健康管理実習 咽頭吸引実習 (半数による実習) ②リーフレット作成	・ 周術期における口腔健康管理の目的、手順、留意点を説明理解し、安全に実践できる。 ・ 吸引の目的、手順、留意点を理解し、安全に実施できる。 ・ 口腔健康管理の目的を理解し、対象者に合わせたリーフレットを作成できる。
第17・18回(2) 6月19日	要介護高齢者への摂食嚥下の評価	・ 摂食嚥下障害に対するスクーリングテストを実施できる。
第19・20回(2) 6月26日 中澤 広美	①車椅子実習Ⅰ ②リーフレット作成	・ 車椅子介助が実践できる。 ・ 車椅子から歯科用ユニットに移乗できる。 ・ 車椅子利用者への配慮を考察する。 ・ 安全に操作できる。 ・ 口腔健康管理の目的を理解し、対象者に合わせたリーフレットを作成できる

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第21・22回 (1)(2) 7月3日 中澤 広美	①車椅子実習Ⅱ ②視覚障害者疑似体験実習	・ 車椅子の特徴を理解し、操作介助ができる。 ・ 車椅子患者の気持ちを体感できる。 ・ 視覚障害のある人の環境を体験し心理を感じる。 ・ 視覚障害のある人へ安全に配慮し、介助を実施できる。
第23・24・25・26回 (1)(2) 7月10日 中澤 広美	高齢者疑似体験実習	・ 高齢者の不自由な動きを体験し、身体的変化を感じることができる。 ・ 安全に配慮し、介助を実践できる。 ・ 適切な言葉でサポートできる。
第27・28回 (2) 7月17日 中澤 広美	食事支援実習	・ 食物の物性と食事形態の種類を説明できる。 ・ 食事支援についての留意点を述べられる。 ・ 食べ物の形態を体感し、援助方法を考察できる。